

第 6 回 宇治市都市計画マスタープラン検討部会 議事録

日 時	令和 3 年 3 月 11 日 (木) 午後 3 時 30 分 ~ 午後 5 時 45 分
場 所	産業会館 多目的ホール
出 席 委 員 (敬 称 略)	部会長 多々納 裕一 職務代理者 森 正美 委員 岡田憲夫、野田崇、山本直彦、小出純子、後藤正明
議 題	1. 全体構想 (原案) について 2. 部門別方針について 3. 市民参画の手法について

会議概要

部 会 長	「全体構想 (原案) について」、「部門別方針について」 「市民参画の手法について」事務局より説明を。
事 務 局	資料説明
部 会 長	ただいまの説明について意見・質問等あれば
委 員	<p>新旧対照の形で見せていただきまして、これまでの議論が入り込んでるなとは思ったんですが、古いものに、今の現行のものに追加していったる関係で、順番とか、あるいは重複とかいうところが気になりました。</p> <p>例えば 5 ページの 3 の工業のところかというと、追加した、「活力ある都市をめざした新たな産業立地」は、書いてある内容が、1 番の「活力に満ちた工業地の整備と充実」とどう違ってくるのか少し分かりにくい。2 番が、これから新しい産業立地をしますよということだとすると、1 番は、既存工業をもっとやりやすくしますよということだと思んですけども、そのあたりが少し分かりにくいかなと思いました。</p> <p>6 ページの交通に関して言えば、概念的には、2 番の「だれもが快適に移動でき、利便性の高い交通体系」というほうが上位の概念じゃないのかなという気がします。だからこれ、上下逆の感じがしました。次の 8 ページも同様、「パートナーシップによる持続可能な交通体系をめざす」ということのほうが先に来るんじゃないのかなと思います。同じように道路も、一番下の「社会情勢に応じた道路網づくりを目指します」という概念のほうがユニバーサルデザインというよりも先に来るのではないかと思います。</p> <p>今回、これまでの議論を追加しているということなので、前のところは変えずに追加の部分という形で整理されてますので、全体として見たときに、より上位の概念なのか、あるいは変えたことで 2 つとも分かりにくくなっているというような気がしましたので、その点少し工夫されたらどうかと思いました。</p>
部 会 長	6 ページの交通の、公共交通体系の話と、バリアフリーの話。これは身近な視点から大きな視点へという視点で書いてあると思いますけど、大きな視点から身近な視点に行ったほうがいいのではないかという、そういうことだろうと思います。これは、どういう並べ方を全体がしているかということにも関係するので、後でまた他の先生方からもご意見を聞きながら整理したらどうかと思います。

委員	<p>住宅地のことなんですけど、2 ページの一番上の「めりはりのある土地利用」のところでも、「住居系の土地利用は、質の高い住宅市街地の誘導を目指します」というのを赤字で今回書かれていて、住まい方のニーズがあるということだと思ふ。続いて、住宅地のところでは、多様な住まい方ニーズに対応するとあるのはいいんですけども、その後、「ライフスタイルに合わせた生活利便施設の整った快適な住宅地やまちなみを大切にしたい戸建て住宅地の誘導に努めます」というふうに書いてあって、戸建て住宅地開発という、何か非常に具体的なイメージが書き込まれていて違和感があった。</p>
事務局	<p>住宅地や商業・業務地という分類は、用途地域をイメージして書いております。住宅地は、住居専用地域をイメージして書いておりますので、そのような表現にさせていただきました。例えば集合住宅であれば、やはり駅に近いところでそのような土地利用をしていただくべきかと思っておりますので、そのあたりがうまく表現できていないかもしれません。</p>
委員	<p>なるほど。イメージとして、何となく住まい方の新しい形として、むしろシェアとかコレクティブとか、何か戸建てだとか集合だとかっていう概念を超えるような、何か共に暮らしてみたいなスタイルが、たぶん増えてきているし、増えてくると思っている。そういうときに、建ち並ぶ住宅地のイメージが住宅地の用途設定なんだっていうのが、用途地域なのでそうなんですと言われたらそうなのかもしれないんですけど、ちょっと違和感があった。</p>
委員	<p>必ずしもそんなこと言わなくてもいい。「まちなみを大切にしたい住宅地の誘導に」と書くだけで戸建てとわざわざ限定する必要はないのでは。</p>
事務局	<p>戸建て住宅地で誘導したいところは個別にまちづくり計画や地区計画で、それに上乗せをして地域で頑張ってもらいたいというようなまちづくりを宇治市はやっておりますので、ベースのところでは戸建てと固定しなくてもいいかもしれないです。それぞれの地域地域の住環境や景観に合わせたまちづくりを宇治市は支援をしていくというスタンスですので、そういう意味ではまちなみを大切にしたい住宅地の誘導に努めますという表現が適切かもしれません。</p>
委員	<p>部門別方針をざっと書いてるこの表題を見たときに、市民の方を巻き込んでどのように関わっていただくかっていう話になるときに、部門別方針の一つ一つのセンテンスが何か長いし、説明的であるというか、中を読めば説明できると思ふんですけども、市民の方に落とし込むにはもう少し短いキャッチフレーズ的な言葉のほうがいいのかなというふうに思いました。</p>
委員	<p>4 ページの商業、商業地の上から 3 つ目の中身の文章ですけど、「生活利便施設の回遊性の向上を図る」というのは、具体的には何をどうするということなんでしょうか。</p>
事務局	<p>駅前での買い物を 1 店で完結せずに、駅周辺にいろいろありますので、歩行空間などを整備することによって、まち全体の買い物空間を広げていこうというイメージを持っております。</p>
委員	<p>4-1 の部門別の方針の比較表で言うと、縦が部門別方針、横が都市づくり基本目標とありますが、都市づくりの基本目標を新旧対照してみた場合に、一番大きく変わっているのは左から 2 番目の「多様な住まい方・働き方を支える都市づくり」となっているところが目標としては大きく変わってるかなという気がしています。それで対応表をざっと見ていくと、都市環境のところにはたくさん載っていて、そこが大きく新旧対応が違うと思ふんですが、その部門別方針を見ると新旧で文言が一緒なので、これは新しい都市づくりの基本目標の方に位置づけて、中</p>

	<p>の文言は組み直したほうがいいのかという気がいたします。</p> <p>例えば、生活環境を維持するだとか、都市環境が文化歴史とか、それから環境問題的なことだけじゃなくて、生活環境みたいのも含むというような一文みたいな、部門別にそんなのが入るともう少し都市づくりの基本目標の「多様な住まい方・働き方を支える都市づくり」と対応しやすいかなというふうに思いました。</p>
委 員	<p>都市環境が主要な貢献をしようと思っている 4 つの柱のうちの 1 つが多様な住まい方であるが、そこが新しく変わったところなので、そこに対して都市環境の基本方針が貢献しているように読めないといけないけれども、中身はあんまり前と変わっていないので、そう貢献するように見えない。</p> <p>「身近に自然が感じられる都市環境」は、多様な住まい方に関係するが、書いてる中身が「生物の生息・生育空間を確保する」とか、「豊かな自然環境とふれあう場をつくる」とか、お子さんの教育みたいな感じに聞こえる。そうでなくて、こういうのに引き付けられる住まい方とか、引き付けられる働き方とか、そのような整理が良い。</p>
事 務 局	<p>生活スタイルも大きく変わってきている中で、働きながら、かつ自然も親しめるようなこの宇治の魅力を前面に出していきたいと思っておりますので、もう少し明確に表現させていただきます。</p>
委 員	<p>8 ページの「パートナーシップによる調和のとれた持続可能な都市開発」、今回のマスタープランで、かなりキーワードとなってる、持続可能性っていう問題やパートナーシップ。これは必ずしも交通だけの話じゃなくしているんなところに出てきてる。それをこだけ取り上げて、しかも交通体系というだけにしたときに、かえって分かりにくいと思うんですね。ある意味ではこの「パートナーシップでやる持続可能な」というのはどこにでもついてくるものだとすれば、その意味合いで公共交通を中心としたまちづくりを進めていくんだというのがここで言わんとしていることなのかなと。</p> <p>そういうふうにと考えると、パートナーシップを選択肢として入れた場合の交通体系の整理の仕方というのがあり得るか分からないというふうに二段構えでやる方法もあるが、そのあたりの整理が正しくできてないのではないかと思います。ファンダメンタルの話になるんですが、たぶんこれでいいと思うんですが、あえて申し上げますと、この資料 3 の部門別方針の土地利用のところ、「交通結節機能や都市基盤」、これは「状況」だったものを「役割」というふうに書かれてた。これは非常に面白い視点だと思うんですが、ただ、これをよく考えてみると、市街地のあるべき姿のほうにあって、それに、都市基盤とかそういうのはむしろ逆行すべきだし、そのために役割を見直すことも含めて考えていく、つまり順序逆向きじゃないかっていうふうにも言えないこともない。それは今までの慣性の法則的な意味で言えばもうできている、それを活用してとにかく間に合わないんだからその流れでいきましょうってことだけど、その逆向きの、引き算のいろんな力がかかっていく中で言えば、もう一度その市街地の在りようを見たときに、逆に言えば都市基盤の役割自身がそうすると少し見直しが必要になってくるかも分からない。</p> <p>この話は言い出すと大層になるんですけども、ただ、やっぱりそのあたり、今までと違うところの新しいベクトルをどう見つけていくかということ、そういうのを部門で、どんな形で織</p>

	<p>り込んでいくのかというところが大変悩ましいんですけども、今回のかなり肝になるんじゃないかなというふうに思いました。</p>
部 会 長	<p>非常に重要な指摘だと思います。簡単に言ったら、何が目玉かということですよ。事務局、何かお考えはありますか。あるいは、これは残しておく、ここで言うのご提案のところで見ると、基本的に踏襲していけば良いんだとご判断されてるように見えるんだけど、それで本当に良いかということが問われていると思いますけど。それはどうですか。</p>
事 務 局	<p>今回考えておりますのは、今の都市の骨格を維持していく、守っていくというのが非常に困難な時代に入ってきたという思いであります。その中で、コンパクト・プラス・ネットワーク、これが基本になるんですけど、そういった視点で、今あるものをこの20年の中で、20年計画ですので20年の中で、守り生かしていくという視点が必要というところが一番の思いです。</p> <p>実際には、その先を見たときに、まだ、社会情勢とかいろいろ変わってきますので読みきれないところがあるので、その変化を点検して見極めて、変化に対応できるような計画にしなければいけない。その視点も必要だと思ってるんですけど、今のあるものを必要最小限の骨格は守った上で、それをベースに都市を最終的には集約できるような流れに持っていけないかなというふうに思っております。そういった思いで書いたところがうまく表現できていないかもしれないかもしれませんが、そういった方向でまとめたつもりではございます。</p>
委 員	<p>持続可能な都市とか地域をつくらうとすると、いろんな合わせをやらなきゃならない。それが、例えば隣接する地域同士、土地利用とかのその整合性をどう取るか、例えば京都府と市との調整をしなければならないとか、そういう問題も入ってくるんですよ。あるいは地区ごとのコンフリクトが出てくる。</p> <p>そういう場を設けながら、ある種のルールをきちっとみんなで作りながら進めていくと。ルール作りを考えて。もちろんその中には、国が作った法律、あるいはそれをさらに使いやすい、作り込んでいくということも含めてですけど、必要なそういう総合調整するためのルール作りをやっていくんだというようなことは、小さなことを含めてですけどかなり大きなメッセージになると思うんですね。</p> <p>地域での整合性を図るというようなことも含めて、コーディネーションがこれからもっと必要で、そのためのルールがいろいろ必要になる。例えば工業の問題にも農業の問題にもいろんなところに本来出てくると思うんですね。そういう、一見小さいけれどそれがまさにある意味で持続可能なまちというのをどうやってつくっていくのか、そして、今までとちょっと違うベクトルをそこに入れていく。しかし、そのためにはパートナーシップが必要であったり、市民の皆さんにも信頼していただいたりすることも必要なんだろうけど。</p>
委 員	<p>前と比べて明らかに違うのが、施設の量が追いついてないとか、充足が必要という観点だったものが、むしろそういうのは取りあえずよくて、質のチェックが必要、こうなってるはずですよ。それから、多様な住まい方、働き方を支える都市づくりの視点は新しく入っているわけだから、ここについての項目はある種、目玉のポイントになるはずだ。</p> <p>関連する所で一つでも二つでも各項目の中のどこかに新しい文言の項目が入ったっておかしくないじゃないかと、たぶん普通に考えたらそう思うわけですよ。そんなのはなかったですかと</p>

	<p>か、あるいはそれを議論してくれて言われたらそれ議論しなくはないんですけど、そういうような話じゃないかなと思うんですよ。</p>
部 会 長	<p>これは残したい、伸ばしたいという項目と、これはやめてもいい、ちょっとトーンダウンでもいい。あるいは、今度新たにこういう視点は入れなきゃいけないという、3つぐらいのグループがあると思うんですよ。それを考えて頂いて、それがこれとこれとこれ。こっちで書いておられるような検討のところに書いてる施策でもいいんですよ。それをまとめたようなものが言葉としてここに出てくるっていう話になると、より分かりやすいと思うんですよ。結果として前と同じ言葉だったって、それはそうかもしれないんですけど、その確認ができればよいのではないかなと。そのとき、できれば言葉もあまり長過ぎず、かといって短過ぎると項目になっちゃうので、書ききれないってことになると思うので、項目では良くないですよ。これは方針だから、どうしたいということを書かなきゃいけないので、だからそれはそうなので、そこを考えていただいて書いてください。かといって、何のことが分かんないようにならないようにはしてもらわないといけないから、ある程度の長さを短めに書いたほうがいいですけどね。どうでしょうか。ご検討いただけますか。</p>
事 務 局	<p>はい。分かりました。今回の改訂の1つの目標が、市民の方に分かりにくい言葉になってるところもございましたので、原点に帰ってそういったところも含めて整理をさせていただきたいと思います。</p>
委 員 員	<p>このマスタープランの機能をどう見るかということだと思うんですけども、一つには行政計画ですから、行政が今後どうするかっていうことだと思う。マスタープランの議論として二階建て構造で、上に市町村マスタープランがあって、それに従って地区計画を作るという議論がありましたよね。地区計画は事実上は付近住民の合意で作るものですから、その場合マスタープランは住民同士の話し合いに方向付けを与えると、そういう機能があるんだろうと思うんです。そういう目で見ると、市はこうしますというのを書いてあるんだけど、市民の皆さんが話し合うときに基本的にはこういう利益のほうを重視してくださいとか対立がある場合、先ほど私がちょっとふれた自然エネルギーの話もそうなんですけれども、土地をめぐる2つの利用方法が対立した場合に、基本的にどっちを優先するのかということを示す必要があるんじゃないかなという気もしている。例えば2ページの、「豊かな自然と調和のとれた土地利用を進めます」というところで、自然的環境については、さまざまな制度を活用して保全に努めると。で、生産緑地も指定に努めますということで、制度を使うのは分かったけれども、基本的にこういったものを守ることに価値があるんだと宇治市として考えてるのかどうかがよく分からない。制度を使いますとしか言っていないので、ここは、制度を使うのはいいんだけど、もう少し、価値判断というか、そういうものが出るものではないのかなと、そういうことを感じました。</p>

<p>委員</p>	<p>認めてることは部門別方針にも出しとかないといけないし、地域に任せるところは、ここはこういう方針もこういう方針も市としては取るけれども、その中で地域で決めてくださいというような、何か段階別意思表示みたいなことを整理しておくことが必要ではないか。でないと、次の段階で議論したときに地域別構想の位置付けが整合性取れなくなるのではないかと今お話を伺ってて思いました。何か時代が、やっぱりそのニーズが多様化してきてるので、全体方針がこうだから地域も従ってくださいと言っても、もうそういうふうにはいかない時代になってる中で、そもそも地域別構想の全体構想とのひも付けの仕方が、これはだから都市計画マスタープランの構造的問題かもしれないんですけど、変わってきてるんじゃないかと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>前に作ったこのマスタープランもきちんとベースにしなが、少し追記していくという感じなので、あまりすっきりしないところも含めて出てくるのは仕方がない部分もあるので、そこはもうむしろそうならざるを得ないというところは、セットせざるを得ないと思うんです。実はもう一つ総合計画との絡みがあって、われわれはこのまちをどうしたいのか、緑をどれくらい守りたいのか、市街地と郊外との関係をどうしたいのか、というのは、市長の意思も含めて総合計画の意思がある。マスタープランを作るのが平行して進むのであれば、やっぱりそれは、空間計画としては不都合だとかというやりとりができるような、その総合計画とのキャッチボールをぜひ進めていただきたい。私たちもこの間の都市計画審議会でもやんわりとそういうことをおしえたと思うんですけど。</p> <p>同時に、今度は逆にこの都市計画マスタープランを、特に今書いていることは、必ずしも地域地区のことでないから、場合によっては、宇治市だけでも決められないことを実は交通も含めて絡んでるし、接点の問題も解かないといけない。だからそのところは、ある程度責任を持って、このスケルトンという構成でいかざるを得ないということを言わざるを得ないです。</p> <p>そのスケルトンをベースに、骨のところをどうするのかとなると、これはやっぱり、今まで以上に地域の人とかといろいろ話をしたり、それから私が言ってるように、やっぱりもっともっと積極的に診断してもらわなきゃならないんで、文句言うだけじゃなくて、どうしてこうなってるのかというのをみんなで理解できるような、そういう地域別の診断の仕方みたいなものも入れながら。その上で、中身のディテールをどう詰めていくかということに関しても、当然行政の意思、それからスケルトン側の都合からの制約はかけざるを得ない、それははっきり言っていたらいい。同時に、生身の人が生身の生活をしたり仕事していく中で出てくる話をもっとソフトな話を含めていっぱいあるわけで、そこは住んでいる人、働いている人にフィットするような決め方、決まり方、あるいは展開の仕方が必要。だから、そういう、三段構えというか、しかもその間に緩やかな行ったり来たりが起こるような、計画の立て方が必要だと思う。スケルトンからの都合が地区に行ったらうまく合わない、その逆も含めて。それから総合計画との絡みも。だからそういうのをどんどん、積極的に洗い出して見直しをかけていくことをせざるを得ないんだろう。あてをつくって、こうやったらたぶんうまくいくだろう、取りあえずはある意思も含めてこうしましょうということをこのマスタープランでうたって、それを地区レベルでやって、ぎくしゃくするところもあるかもしれませんが取りあえずそう決めて、でも実際にやろうとするとそれが5年とかくらい時間がかかるんです。その間に点検</p>

	<p>が入る。</p> <p>その中にコンフリクトも含めてどうするかという話を実際、診断の中にも議論の項目として入ってくるんじゃないかと思います。ただ、これはどっちかという少し理想論的な話かも分かりませんが、市としても、やっぱりスケルトンとしてはこう行きたいということはもうはっきり言っていた。それから総合計画とのその絡み、これはやっぱりある程度行ったり来たりきちっとできないといけないし、いや、これは総合計画の意思なんですということは、これは受けざるを得ない。でもそれが今度は地区のほうまでいったときにまたぎくしゃくする話いっぱいあるわけです。</p> <p>計画して何となくそれにフォローしていくというやり方が取れないとすれば、やっぱり、5年単位ぐらいで診断をきちっと入れて、そして調整していくというようなことをやらざるを得ないんじゃないかなというふうに思います。</p>
部 会 長	<p>そうできるように地域の人が作ったマスタープランにしないといけない。だから、それが前のときにやってたときの理念ではあるわけですね。だからこれは、緩いけどもそんなのも反映されているから宇治としてもともとある市街地ができるだけキープされて、周りには緑があって、公園もあって、自然もあって、だけど交通網がきちっとあって、そこ中心にまちづくりしましょうという話は基本、厳然と残っていると思う。</p> <p>今回入ってきたところで言ったら、前はそれほど強調してなかったところと言うと、例えば水害のリスクとかそういうような話っていうのはむしろクリアに出てきているっていう問題がある。それから、将来人口減少したり働き方変わってきたりするから、そのとき対応できない、どうしたらいいかということを考えるためのネタとして、たぶん環境というのはとても大事、環境っていうのもファシリティとかみんな含めてですよ、都市サービスとかも含めてだけど、そういう環境みたいなものが大事ということを強調されている。そういうところが伝わるようにどうまとめてみせるかということが求められているところだと思う。</p>
委 員	<p>市民参画の手法について、前はほぼ白紙の状態から始めたんですね。それで、どちらかというと積極的に参加したい人はワークショップをやって、それで決めたことをベースに、今度はもう一度一般の方にも聞いていただくという二段構え、三段構えぐらいでやったんです。それはそれでそれなりに、体験された方は積極的に評価されてるような気がしますが、しかしそれをもっと積極的な意味で言えば、既に前のバージョンは地区別の意見を結構反映したものができている。ただ、もちろんもう今見直しが必要になってくるので、だいたいこんなふうに出てきてるんだけど、そこに少し修正を加えるとすれば一体どんなものかという問いかけで、一から、どんどん話をもむという話の形で地域の方々に投げかけるということではないのではないかと思います。</p> <p>そういうのを踏まえて、皆さんに地域別で議論をしていただく。ただ、それを、1回ですと済ませるんじゃなくて、結構丁寧にやっていただいて、そこやはり皆さん何か作り込んだっていう感じが共有できれば、より今後それを皆さんが自分たちのものだと感じながら関心持ってもらえるんじゃないかと思うんです。</p>

委員	<p>宇治市に例えば YouTube の「ちはや茶んねる」という公式チャンネルがあって、そこで例えばライブ配信なり録画配信をして、で、そこに例えばコメントを書き込んでもらう。今度のマスタープランはどんなまちを描こうとしていて何がポイントなのかっていうことを説明しなきゃいけないので、それはそれで大変だとは思いますが、例えばそういうものであるとか、あるいはその地域別構想が、前はこうだったけど皆さんどう思いますかっていうような投げかけがあるとか。Zoom でウェビナー配信するとか、Zoom で何回か URL 配信して会議をすると色々な手法があるのではないかな。</p>
委員	<p>いろんな工夫をしながらいろんなご意見を頂いて、それを全部盛り込むことはできないけれども、やっぱりこちらの意図がそれなりに伝わるようなところに持っていく必要がある、とするならば、やはり順番はどうするか別にして、複数のやり方を組み合わせてやるのがたぶんいいだろう。こういうことをやってる意図が積極的な意味でどういうふうに伝えられるのかというふうに考えると、難しいところも含めて、それを突破しなければならないですね。まずは行政の皆さんが説明して、議論が出るところで、体験されればいいと思いますが、たぶんそれだけで終わらない。だからいくつかの方式を組み合わせて、収束どころを見つけていくしかないんじゃないかな。</p>
委員	<p>「宇治市さんどう思いますか」って言ってあげる人だけがいるだけでも違うよなと思うんですが、そのへんどうでしょうかね、そのあたりを配慮いただいて、そこで学識経験者や学生の大学生の参加も検討して書いてますが、そうじゃなくてコンサルタントとかでもいいかとは思いますが、要するにそのへんのところを少し工夫いただいて、単純な対立構造にならない、あるいは地域の方の、こっち側にも加わってくれるような人がいて何か上手な行き方を考えないといけないと思うんですけど。むしろ今後も何かうまくつながっていくような組織づくりにつながると思います。</p>